

Q. 13 板書が苦手です。子どもたちにわかりやすい板書をするためには、どんなことに気を付ければよいのでしょうか。

A. 板書は、授業で教師が指導する内容について、子どもが考えたり、理解を深めたりするために行います。そのためには、1時間の学習のねらいや授業の流れが板書で適切に示され、必要な知識や理解事項などが整理された形で示される必要があります。そこで、次のことを板書する内容として考えてみましょう。

- ① 単元（題材）名
- ② 学習のめあて
- ③ 学習活動の見通し
- ④ 理解させたい内容の要点
- ⑤ 子どもの発言、発表
- ⑥ 全体のまとめ など



これらのことが板書に整理されていると、視覚的な面から、子どもたちの思考の促進や学習の理解につながっていきます。そこで、誤字・脱字をなくし、色彩に工夫を凝らしたり、図や表を取り入れたりするなど視覚に訴えるような板書を心がけたいものです。また、ノート指導との関連を図りながら板書を考えることも大切にしたい点です。

具体的には以下のことに気を付けましょう。

○板書のレイアウト

何をどこに板書するか、どのように黒板を使っていくかということです。書く位置をあらかじめ考えておいて、最終的には、一目で内容がわかるような工夫をすることが大切です。チョークを使って書くだけでなく、カードや模造紙にあらかじめ書いておいたものを貼ることも考えられるでしょう。その際は、全体のレイアウトを構想しておく必要があります。また、教師が書くだけでなく、児童生徒に書かせるようなことも展開の中ではあると思います。こうした板書計画を事前に立てるとともに、授業の展開の中で、最初の計画に修正を加えていくことも重要です。

○板書のタイミング

いつ板書するか、どんな時に板書するかということです。授業を中断しないで、いかに授業を盛り上げていくかということにかかわってきます。子どもの表情や緊張ぶりを、うまくつかみながら板書することが大切です。このタイミングが悪いと、教師が後ろ向きになっている時に、子どもの発言があったり、ざわついてしまったりすることになってしまいます。

○板書のスピードと立ち位置

板書の文字を丁寧に書くことは当然大切なことです。それに加えて、スピードにも気を配りましょう。低学年では、教師の板書のスピードが、子どもにノートを書かせるスピードを教えることにもなります。また、正しい筆順のお手本にもなります。学年が上がるにしたがって、ゆっくり書いたり、速く書いたりする場合も出てきます。子どもの思考のテンポに合わせたり、子どもの発言が次々に出る時などは、要約してまとめて書いたりすることもあります。また、子どもにとって見えやすい位置で書くことも大切な要素です。